

世界の動きと関連させて 信長・秀吉の時代を考える

宮城県公立中学校教諭

1 はじめに

新学習指導要領の歴史的分野の目標には、「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ」とし、わが国の歴史の大きな流れを理解することが学習の中心であるとしている。

各時代の特色をとらえる学習を新設し、学習した内容を活用してその時代を大観し表現したり、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえたりする学習などを通じて、歴史的事象について自分の言葉で表現する学習を行うことを重要としている。

多くの事象をただ覚えるだけでなく、「つまりこの時代は」「この時代を代表するものは」など各時代の特色を大きくとらえ、まとめの段階などで、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりすることで思考力・判断力・表現力等を身につけるとともに確かな理解と定着を図ることができる。さらに、前の時代との違いや移り変わりに気づく学習も大切である。

また、わが国の歴史の大きな流れの理解のために、その背景となる世界の歴史の扱いを充実させて学習することも示している。世界の動きとわが国の歴史の流れを適切な資料を精選して提示し、関連づけて学習させる必要がある。

2 単元の構想

本単元では、織田信長、豊臣秀吉など、生徒にとっては興味のある人物が登場する。小学校での学習の繰り返しにならないように、事前に実態調査をする必要がある。

第1時：ヨーロッパ人による新航路の開拓

世界の動きとの関連に着目して学習する。

ヨーロッパ人来航の背景については、新航路の開拓を中心に、宗教改革、その他南蛮貿易、キリスト教など、適切な資料を提示する。

第2時：信長・秀吉による全国統一

第3時：秀吉の政策による近世の幕あけ

第4時：武将や豪商が競った文化

第5時：まとめ

信長、秀吉など、この時代に活躍した人物の遺言を書かせてみる。それぞれが、鉄砲やキリスト教、南蛮貿易など、それぞれの立場で、どのような活動をしてきたのか、中世と比べてどのような変化があったのか、そして近世社会の基礎がつけられていったということを自分の言葉でまとめていくこととする。

また、この単元で重要な出来事や言葉などを選ばせることによって、時代を代表するものはどのようなことなのかを考

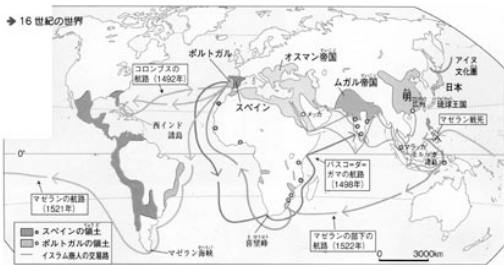
えさせる。

単元を貫く大きな課題として「ヨーロッパの影響を受けながら、日本の社会はどうなっていたのだろうか。」を設定したい。

本単元では、「導入」部分であるヨーロッパ人が来航したことで日本は様々な影響を受けていくことになる。その後信長や秀吉によって、どのように近世社会の基礎がつくられていったのかをとらえさせたい。最後に信長・秀吉などの遺言を考えさせることによって学習の成果をつかませる「まとめ」としたい。

本単元は織豊政権によって近世の社会の基礎がつくられるが、次の単元で幕藩政治が確立するうえでの重要な基礎となる単元であるにとらえ、このように構想した。

3 単元の展開



● 金と同じ価値があった香辛料
 ヨーロッパ人にとって香辛料は、薬であり肉の貯蔵や調味料としても欠かせない商品でした。ニンニクやミントなどのヨーロッパでも同じ香辛料も使われていましたが、インドの胡椒、モルッカ諸島のナツメグやクローブなどは人気が高く、ヨーロッパでは原産地の数百倍の価格で取り引きされました。イスラム商人やイタリア商人の手を介さずに直接貿易したいという望みが新航路の発見につながりました。

▼ごしょう ▼ナツメグ ▼クローブ(丁香)

「中学校スタンダード歴史資料」 p.78

第1時では、当時のヨーロッパ人の様子を、資料集「中学校スタンダード歴史資料」 p.78の「金と同じ価値があった香辛料」「大航海

時代前の貿易」の図をスキャナでパソコンに取り込み、電子黒板で大映しにして提示する。

ヨーロッパ人が独自の航路を見つけなければならなかった理由を考えさせる。



資料集p.77 免罪符の販売

また、新航路の開拓については、同じく p.78の「16世紀の世界」の地図を拡大して示し、ス

フランシスコ＝ザビエル
 (1506ころ～52)
 鹿児島に上陸した聖人!?

イエス会の宣教師です。現在のスペインとフランスの国境近くで生まれ、カトリックを広めるためにインドや中国、日本へとやってきました。日本は一年余りの滞在でしたが、多くの影響を残しました。

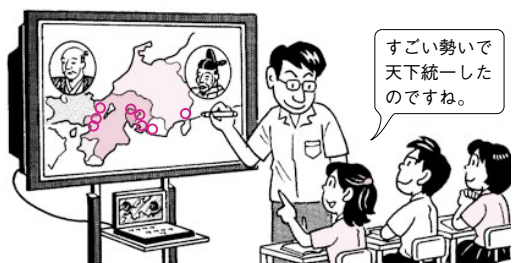
資料集p.81 フランシスコ＝ザビエル

インとポルトガルの動きを大きくとらえさせる。宗教改革については、資料集p.77の「宗教改革」の部分丁寧に読ませる。

「南蛮屏風」の絵も上記と同様にパソコンに取り込んで大映しにする。南蛮貿易について、宗教改革やザビエルの日本での活動などから、日本がヨーロッパからの影響を受け始めることを資料から読み取らせる。

単元を貫く学習課題として「ヨーロッパの影響を受けながら、日本はどのような社会になっていたのだろうか」を提示する。

なお、大映しにする資料は、教科書や資料集と同じ資料がよい。見えにくい場合に、生徒がどこに注目をすればよいのかが、教科書



地理

歴史

公民

地図

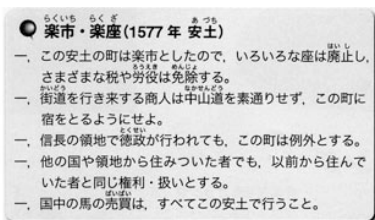
社会科

や資料集から探することができるからである。

第2時、第3時では、学習課題にせまるため、織田信長と豊臣秀吉による天下統一へのあゆみ、および天下統一後の様子を調べる。実態調査で生徒がほとんど知っている内容については、詳しく扱う必要はない。

信長については資料集p.80の「信長の動き」「長篠合戦図屏風」「楽市・楽座」などを読みとらせ、ワークシートにまとめさせる。単に、信長の一生や、業績を追うだけでなく、信長が行った、仏教勢力への圧迫や関所の撤廃によって、中世に大きな力を持った勢力が力を失い、中世とは異なる社会が生まれていったことが浮き彫りになるようにする。

「楽市・楽座」の資料だけでは、中世との比較がなかなか難しいので、資料集p.66の「近畿地方の交通」の地図と解説や教科書p.75の本文を活用して、中世との比較をするようにする。また、堺の自治権を奪ったことに関しては、資料集p.70の「町衆の自治」の資料、p.71「自由都市堺」の図を活用しながら、信長が商人や職人たちを支配下においていったことを理解させる。



資料集p.80 楽市・楽座

仏教勢力への圧迫については、資料集p.67の「加賀の一向一揆」および「一揆の種類」の表などとp.80の「石山本願寺



資料集 p.66 近畿地方の交通

跡」の写真および解説を活用して、比較させる。

信長の経済政策への導入は、長篠の合戦で3000挺鉄砲を準備しているが、鉄砲を手に入れるために莫大な資金が必要だったことなどから考えさせる。

秀吉については、太閤検地、刀狩を中心に、ワークシートを活用して調べたことをまとめさせる。信長と同じように、中世までとどのような変化があったのかを理解させる。秀吉の政策については、中世の資料と比較させるよりも、資料集p.82~83の「太閤検地」「刀狩令」「身分統制令」およびその解説を丁寧に読みとり、まとめさせる。生徒に対しては、比較というよりも、「どのような社会になりましたか」「どのように変わりましたか」という提示の仕方の方がよい。

秀吉の対外関係として、東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮出兵に関しては、p.83の「16世紀後半の東アジア」などの資料を活用する。日本が当時、金や銀の産出量が世界の3分の1だったこと、キリスト教は禁止しても、商人の貿易は認めたとことなど、対外政策の意図も理解させるようにする。

第2時、第3時は信長や秀吉の統一事業や、中世との比較や変化をどう生徒が理解するかがポイントである。たくさんの資料を活用しながら調べさせることになるが、生徒が調べたことが、構造化されたり、中世と比較されたりしてわかりやすくまとまるようなワークシートを活用する必要がある。

第4時では、教科書や資料集などから、「唐獅子図屏風」、「西本願寺書院」、「檜図屏風」などから安土桃山時代に豪華な装飾美術が重んじられたこと、千利休の「妙喜庵茶室」、

秀吉の黄金の茶室などから茶の湯の発展、「南蛮屏風」、キリシタン（天草）版「平家物語」から南蛮文化が伝わった様子などをとらえさせる。興味のある作品を一つ選ばせ、選んだ理由と作品の時代背景や特色を説明させる。

第5時のまとめは、大航海時代のバスコ＝ダ＝ガマ、ザビエル、鉄砲を伝えたポルトガル人、信長、秀吉などの遺言づくりをしてもらう。

グループに分かれて、それぞれの一生を振り返りながら文章にまとめていく。

・バスコ＝ダ＝ガマ

大航海時代に喜望峰をまわってインドに到達し、その後インドを拠点にアジアに乗り出していったことをはじめ、その他スペインやコロンブス、何のために海へ出ていったのか、などをまとめさせる。

・ザビエル

なぜ日本にやってきたのか、イエズス会がどうしてできたのか、宗教改革がなぜ起こったのか、日本にキリスト教を伝えて日本がどのように変わったのか、などをまとめさせる。

・鉄砲を伝えたポルトガル人

どのようにして日本にたどり着いたのか、鉄砲を伝えた日本人はどうしたのか、南蛮貿易でどのような貿易が行われたのか、ヨーロッパ人の影響でどのような文化が発達していったのか、などをまとめさせる。

・織田信長

どのように鉄砲を活用していったのか、その資金はどうしたのか、戦乱の世の中でどのように勝ち残っていったのか、キリスト教を容認するのに、なぜ仏教勢力を一掃しようとしたのか、中世との違いはどのようなところか、などをまとめさせる。

・豊臣秀吉

天下統一までの道のり、太閤検地や刀狩による国内政策、信長が容認していたキリスト教をなぜ禁止しようとしたのか、対外政策はどのように進めたのか、などをまとめさせる。

グループでまとめさせていくが、最初は、一人ひとりでまとめていく。一人ひとりのまとめをグループで練り上げる。まとめるポイントを明確にするため、使用する語句を提示する。グループで練り上げた文章を代表が発表する。

文章を作成する際に提示した語句を黒板に貼りながら発表した文章を構造化していく。

本単元の学習課題について、どのような時代だったのかを個人でまとめて発表させるとともに、この単元で代表となる出来事や言葉を選ばせる。近世の社会全体の授業が終了したら、代表となる言葉や出来事をランキング形式で考えさせるのもよい。発表した文章は、教室か廊下に掲示をする。

4 本単元による世界の歴史の扱いについて

新学習指導要領では、「ヨーロッパ人来航の背景」については、「新航路の開拓を中心に取り扱い、宗教改革についても触れること。」(内容の取り扱い)とある。そのため、本単元では、新航路の開拓や資料集のp.77の宗教改革についての資料を取り上げ、関連資料も活用することとした。まとめの段階で、信長や秀吉以外にバスコ＝ダ＝ガマや、ザビエルをとりあげたのは、世界の歴史を背景にわが国の大きな流れを理解させるためにとくに重要であると考えたからである。